

## 視察研修報告

1. 視察先：宮崎県延岡市・鹿児島県鹿児島市

2. 視察日：平成22年10月12日～14日

### 3. 調査事件

- (1) 地産地消一校一農運動について
- (2) 乗り合いタクシー事業について
- (3) 鹿児島環境未来館について

### 4. 調査の概況

#### (1) 延岡市

##### ア 延岡市の概要

延岡市は、宮崎県の北部に位置し、面積は867.99k㎡、人口129,887人(2010年8月1日)である。中心地域は、宮崎県北部の中心都市としての性格を有する。戦前より宮崎県内屈指の工業都市の性格が強かったが、第二次世界大戦後の財閥解体により、日室コンツェルンは解体され、延岡にある工場は旭化成として再出発した。1951年頃は人口の約半数、市税納入額の3分の2、市議会議員の3分の1が旭化成関係であったことや、大消費地から遠いこと、更には化学工業が石油中心となったことから、以前ほどの経済力はなくなり、人口も1982年を境に減少している。2006年2月20日には北浦町・北方町、2007年3月31日には北川町を編入している。また、チキン南蛮、橋の日発祥の地である。

##### イ 地産地消一校一農運動について

###### (ア) 取り組みの経緯

延岡市では、学校給食推進事業を平成15年度～平成18年度まで実施してきた。その中で、これまでの補助事業で形成できた、学校と生産者のつながりを活用できないか？食材提供のみでなく、農業体験等も含めた学校独自の取り組みに発展できないか？等を検討した結果、「地産地消一校一農運動」を提案し、取り組むことになった。

###### (イ) 地産地消一校一農運動とは

延岡市内の小学校と小学校1校につき1人以上の生産者が、以下の3つのいずれかに取り組み、食農教育や地産地消に努める事業(各学校と生産者が協定を結ぶ)

###### a. 学校給食への食材納入/青果物等

生産者の作った農産物等を学校給食の食材として利用する。年数回実施。

###### b. 生産者と児童の交流

生産者が学校訪問して、農作業等に関する話をしたり、児童と交流をもつ。

###### c. 農業体験等の実施

児童が生産者の圃場等に出向き、農作物等の観察や農業体験等を行う。

###### (ウ) 地産地消一校一農運動の目的

児童が地域の農業等に触れる機会を持つことで、農業や食べ物に対する考え方を育てる食農教育と、地元産物の消費拡大につながる地産地消の推進を図る。

(エ) これまでの経過

平成18年10月…生産者へ当事業協力の意向調査開始

(調査対象者：JA 延岡玉ねぎ部会、延岡市果樹振興協議会、  
延岡地域稲作研究会、「学校給食推進事業」協力農家等)

平成19年 7月…小学校へ当事業参加の意向調査 (H19年度)

平成19年 8月…参加小学校近隣の協力生産者へ協力依頼

平成19年10月…平成19年度調印式 (調印者9組)

平成20年 5月…小学校へ当事業参加の意向調査 (H20年度)

平成20年 6月…参加小学校近隣の協力生産者へ協力依頼

平成20年 9月…平成20年度調印式 (調印者5組)

(オ) 留意した点

a. 市教育委員会や小学校校長へ事業内容の説明

市教育委員会・校長会会長・給食会会長・校長会へ事業説明を行い、当事業の参加について呼びかけた。

b. 学校給食食材納入業者への協力依頼

食材納入業者への影響が懸念されるため、食材納入は年に数回とした。また、食材納入業者への協力依頼文書案を示し、各学校からの送付を依頼した。

c. 学校給食へ納入する食材の検討

当初は双方に負担のないよう、納入や調理のしやすい食材を選定した。

(カ) 事業の効果

a. 児童・保護者

児童はもとより、児童を通じて保護者に対しても、地元食材のおいしさをPRすることができた。

b. 生産者

生産者の消費拡大につながった。

また、児童の反応を身近に感じることができると、生産意欲につながる良い刺激となった。

(キ) 今後の課題と目標

a. 取り組み内容の拡充

協定締結当初は学校給食への食材納入のみであった学校が、交流会や農業体験にも取り組む等、今後の取り組み内容の拡充が見込まれる。

b. 当事業の拡大

当事業を拡大するには、協力農家が増えることが必要である。今後も農家やJA延岡の協力を得ながら、未協定の学校(24校の内10校)へ参加を呼びかる。

ウ バスの状況と乗り合いタクシー事業について

(ア) 定期路線バスの現状と対応

路線バス事業者は、自家用自動車の保有率が高まるにつれ、年々減少を続けており、県内のバス利用者は昭和44年の約7805万1000人をピークに、平成21年度には992万5000人とピーク時の13%となっている。

こうした中、延岡市においては、平成17年度に3路線が、平成18年度に7路線が廃止路線として提出されたが、このうち6路線については廃止路線代替バスや乗り合いタクシー導入のほか、既存の福祉バスの運行エリア見直し等により代替交通手段を確保した。

また、ダイヤ改正に関しては、これまでの乗車データ等に基づき、利用者の少ない昼間や土日ダイヤを中心に減便が実施されたが、平成21年7月からは、運行区間の見直しによる増便など、路線の充実が図られている。

市内の路線バスについては、73%の系統が赤字を抱えながら運行しており、市民の皆さんが「バスは乗って残す」という意識を改めて持つことと同時に、いかにして既存の路線バスを活かした交通体系を築いていくかが重要になっている。

#### (イ) 欠損補助路線

路線バスのうち、宮崎交通による自主運行は困難であるものの、他の代替交通手段がなく、通勤や通学、高齢者の移動手段を確保するために必要不可欠な路線については、市が、赤字分を補てんする形で運行を継続している。

現在、7路線に欠損補助を行っているが、利用者の伸び悩みから欠損額は増加の一途をたどっている。

#### (ウ) 廃止路線代替バス

廃止路線代替バスは、乗り合いバス事業者が廃止した路線について、市町村が主体となって運行する形態で、市町村が直接運行する場合と、バス事業者に運行委託する場合がある。延岡市では、現在3路線が運行しており、全路線を宮崎交通に運行委託している。廃止路線代替バスは、県と市が赤字分を補填する形で運行しているが、延岡駅～三輪線、古江～直海線は、現在、県の補助制度はなく、市の単独補助となっている。

#### (エ) 乗り合いタクシー（旧延岡市内）

交通空白地域の中でも、地域に病院や商店が無く、最寄りの定期路線バスの停留所まで距離のある地区については、乗り合いタクシー（ジャンボタクシー又は小型タクシー）の導入を進めている。平成20年10月からは、「安井・神戸～川口線」、「上三輪・中三輪～細見線」、平成21年7月からは、「須佐・鹿小路～レーヨン線」、「小川～平田線」を運行している。（委託：宮崎県タクシー協会）（大人200円、小中学生100円）

#### (オ) コミュニティーバス・乗り合いタクシー・巡回バス（旧三北地域）

市町村が地域や利用者を限定して運行するバス形態のことで、北方町と北浦町、北川町で、それぞれ運行している。各地域ともに、公共交通の空白地区と総合支所等をつなぐ、地域に密着した路線になっているが、運行回数や利用料などが地域によって異なることから、現在、一体的なサービスを提供するため、運行形態や適切な利用料についての再編案を検討している。

そのような中、平成21年6月まで、北浦町では、廃止路線代替乗り合いタクシー（有料）として、古江～三川内間の乗り合いバス事業者が廃止した路線について、延岡市が主体となって乗車定員10人以下のタクシーを運行し、別に三川内～下塚・市尾内間は福祉バス（無料）として運行していた。これを平成21年7月から乗り合いタクシーとして統一し、運行している。

#### (カ) スクールバス

学校までの距離が遠く、徒歩での通学が困難な小中学生のために市が運行するバス形

態のことで、近年の小中学校の統合などに際しては、運行エリアを拡大し、小中学生の登下校や遠足等の学校行事に利用されている。(無料・市負担)

## (2) 鹿児島市

### ア 鹿児島市の概要

鹿児島市は、九州の南端鹿児島県本土のほぼ中央にあって、北は蒲生町、西は日置市、南は指宿市などと接している。市街地は、鹿児島湾に流入している甲突川など7つの中小河川により形成された小平野部にあり、その周辺は、海拔100mから300mの丘陵地帯(シラス台地)となっている。

人口は、60万6911人(2010年10月1日現在)、面積は、547.06km<sup>2</sup>(平成19年10月1日現在)、気温は、過去5年間の平均気温18.8度、夏季最高気温35.8度、冬季最低気温-0.4度であり、温暖な気候に恵まれている。年間降水量は、2247ミリに達し、6月から8月にかけて最も多く、年間降水量の1/3はこの時期に降る。また、市街地と錦江湾を隔てて、桜島が現在も活動を続けており、風向きによって、火山灰が市街地に降ることがある。(平成16年の桜島爆発回数11回、鹿児島市役所本庁での年間降灰量124g/m<sup>2</sup>)

鹿児島は、大陸や南洋諸島に近いという立地条件から、必然的に琉球を中継地として早くから貿易も活発に行われ、また、大陸文化やヨーロッパ文化の門戸ともなった。16世紀の中頃、フランシスコ・ザビエルが上陸し、我が国に最初にキリスト教を伝えたことなどは、その代表的な例ともいえる。

さらに、近世に入ってから、19世紀の中頃新しいヨーロッパの機械文明を取り入れた研究が進み、第28代島津斉彬公のもと磯地区一帯では反射炉や溶鋳炉が造られ、我が国における近代工業化の発祥の地となった。

明治維新においては、薩摩藩の元勳西郷隆盛・大久保利通などを筆頭にその原動力となり大いに活躍した。明治4年に廃藩置県とともに県庁の所在地となり同22年4月には市制が施行された。

鹿児島市は、第二次世界大戦の戦火で市街地の約9割を焼失したが、市民のたくましい建設意欲の中で、思い切った都市計画が策定され、将来の躍進に備える礎が築かれ、戦後は観光・商工業の発展とともに市域も拡大し、昭和42年4月29日には隣接する谷山市と合併して、人口38万人の新鹿児島市が誕生、同55年7月には人口50万人を突破した。その後、平成元年には、市制施行100周年を迎え、平成8年4月1日には中核市に指定された。また、平成16年11月1日には吉田町、桜島町、喜入町、松元町及び郡山町と合併し、政治・経済・社会・文化等高次な都市機能が集積した南九州の中核都市として発展を続けている。

### イ かがしま環境未来館について

#### (ア) かがしま環境未来館とは

一人ひとりが今日の環境問題を考え、環境に配慮した行動に結び付けていくことができるように、環境意識の高揚、環境保全活動の意欲の増進などを図るため、参加・体験型の環境学習やリサイクル活動などの様々な事業を展開する施設である。

#### (イ) 基本理念

a. 緑の大地：敷地全体を使い豊かな緑を創出する。

・敷地全体を使い豊かな緑を創出し、地球温暖化やヒートアイランド現象などの対

策に貢献する施設。

- ・敷地全体を四季の変化を楽しめる潤いのある緑の広場とし、多くの人に親しまれる施設。
- ・屋上を全面緑化し、緑にとけ込み、建物を主張しない施設。
- b. 自然との共生：自然がもたらす恵み「緑・水・空気・光」を最大限に活用する。
  - ・緑 …屋上や建物周辺の緑化による空調効果。
  - ・水 …地下水や雨水の空調、散水などへの活用。
  - ・空気…敷地全体の卓越風を取り込む建物配置。
  - ・光 …太陽の光を取り入れ、暖かみあふれる空間。

(ウ) 運営の基本方針

市民事業者が環境について関心や理解を深め、日常生活や事業活動において、自発的に環境保全活動を実施するとともに、その活動の輪を広げていくことを促進するため、事業運営に当たっては次の内容を基本にして取り組む。

- a. パートナーシップで人と人がつながり、楽しみながら学び、参加・交流する。
- b. 行動する人づくりや仕組みづくりを市民等との共同で進め、その成果を発信する。
- c. 環境に配慮した生活や行動に踏み出すことを支援する。
- d. 環境保全活動に主体的に取り組む人材を育成する。

(エ) 施設概要

|      |                          |   |
|------|--------------------------|---|
| 敷地面積 | 10,162.44 m <sup>2</sup> |   |
| 延床面積 | 2,992.52 m <sup>2</sup>  |   |
| 構造   | 鉄筋コンクリート造 2階建            |   |
| 駐車台数 | 普通車43台、バス4台、臨時駐車場 普通車26台 |   |
| 施設   | 1階                       | 展示学習ゾーン、リユース・リサイクルショップ、リサイクル工房<br>実験学習室、食工房など |
|      | 2階                       | 多目的ホール、研修室、活動支援室                              |

(オ) 経緯

- 平成16年度 基本構想、基本計画策定
- 17年度 基本設計、用地取得（鹿児島実業跡地）
- 18年度 実施設計、工事着手
- 19年度 工事
- 20年度 建物竣工（5月）

(カ) 事業費

- 約43億6000万円  
(用地費 約22億2000万円、工事費等 約21億4000万円)  
(財源：国庫（まちづくり交付金）39.5%、起債（合併特例債）56%、  
一般財源4.5%)

(キ) 展示の構成

- ゾーン1 「世界はつながっている
- 2 「地球はすでに限界を超えている」
- 3 「わたしたちがしてきたこと わたしたちがすべきこと」
- 4 「あの日に帰って考える 今日という名の未来」

(ク) 基本的事業

- a. 環境学習の推進
- b. 環境情報の提供
- c. 環境学習・保全活動の支援
- d. 人材の育成
- e. リユース・リサイクル活動の促進

(ケ) 環境に配慮した施設の特徴

- a. 市民意見により公共交通を使うべきとの声で駐車場の台数削減
- b. 屋上緑化や太陽光発電、地下水の利用、地下に空気を通し冷暖房に生かすアースピット、8000本の樹木、二酸化炭素センサー、壁は漆喰など。

(コ) 住宅用グリーン電力証書購入事業

温室効果ガス削減のため、太陽光発電を設置している市内の住宅から生み出されるグリーン電力（太陽光発電により、自宅で消費した電力）を環境未来館や本庁及び各支所の庁舎グリーン電力証書で導入（購入）する。



太陽光発電設備



1日1ドル未満で暮らす人数



屋上緑化



床に貼られた世界の暮らし